

ソーシャル・キャピタルに関するアンケート調査中間報告

○調査の趣旨

本報告は、株式会社日本総合研究所が2007年8月に実施した「ソーシャル・キャピタルに関するアンケート調査」の単純集計結果を示したものである。

少子・高齢化社会、地域間及び世代間所得格差、地方分権化などの様々な社会問題を解決する重要な概念として、近年、ソーシャル・キャピタルが注目されている。しかしながらその研究はまだ始まったばかりであり、今後、調査・研究の進展が期待されているところである。日本国内における調査研究については、内閣府が2003年、2005年にソーシャル・キャピタルに関するアンケート調査を実施し、わが国のソーシャル・キャピタルの実態を把握したが、それ以降の調査は行われていない。そのため本調査は、わが国におけるソーシャル・キャピタルの最新の实態を把握し、取りまとめた中間報告である。

○調査方法

この調査は内閣府(2003年、2005年)のアンケート調査を参考とした質問項目を設定し、国民へのアンケート調査を行った。アンケート回収数は3,000であり、WEBアンケートによる回答方式を用いて、回答を収集した。

アンケートの設問項目は、「他人への信頼について」、「日常的なつきあいについて」、「地域での活動状況について」の3つから構成されている。

○調査結果

アンケート結果を分析すると、以下の2つの大きな特徴が見て取れる。

その1：近所づきあいが非常に狭い範囲で行われており、かつその範囲内では濃いつきあいとなっているという兆候が見て取れる。本調査において近所づきあいの人数は「4人以下」が最も多く、これは内閣府の2003年調査より減少している。それに対して、近所づきあいの程度については、本調査では「あいさつ程度」が最も多く、その程度は内閣府の2005年調査より高くなっている。このことから、近所で付き合う人数は減少しているが、その中での関係は濃くなっており、閉鎖的な近所づきあいが形成されつつあることが伺える。

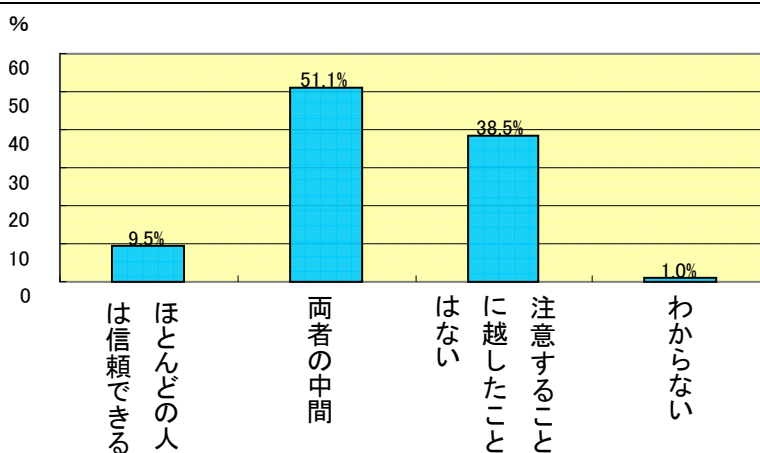
その2：自身の楽しみのために活動し、地域や他人に貢献する人が減少しているという兆候が見て取れる。本調査では、地域での活動のうち、最も活動している人が多かったものはスポーツ・趣味・娯楽活動であり、次いで、地縁的活動であった。これは内閣府の2003年及び2005年調査と比較して、開きが大きい。このことから、自身の楽しみのために活動する人が増加し、地域や他人に貢献するために活動する人が減少していることが伺える。

1. 他人への信頼について

1－（１）あなたは、一般的に人は信頼できると思いますか。それとも注意をするに越したことはないと思いますか？

調査結果

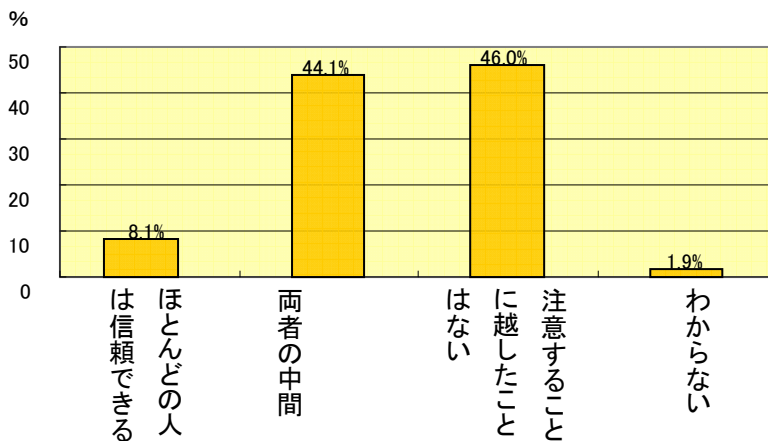
アンケートに答えた約半数の回答者は、他人に対して「信頼はできないが、注意するほどではない」と答えている。次いで、約４割の回答者は他人に対して「注意するに越したことはない」と答えている。



1－（２）「旅先」や「見知らぬ土地」で出会う人に対してはいかがでしょうか？

調査結果

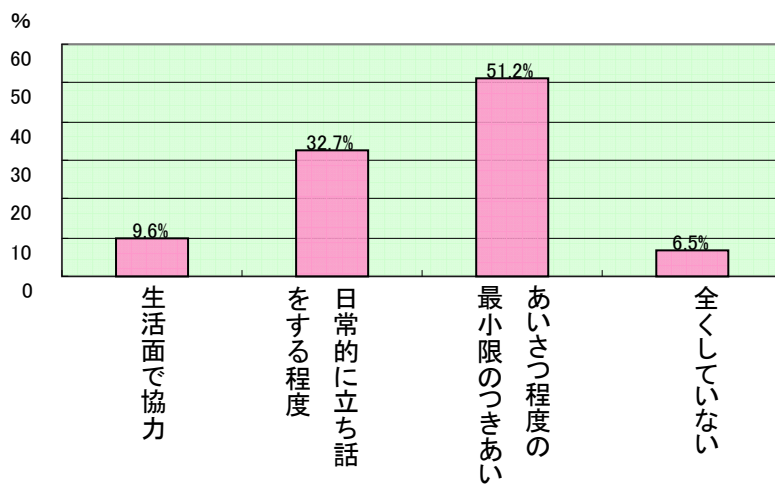
アンケートに答えた回答者のうち、最も多かった回答は「注意するに越したことがない」で46%である。このことは、一般的に他人に対して「注意するに越したことがない」と感じない人でも、見知らぬ土地では他人に対して不信感を持つ人が多いことを示している。



2. 日常的なつきあいについて

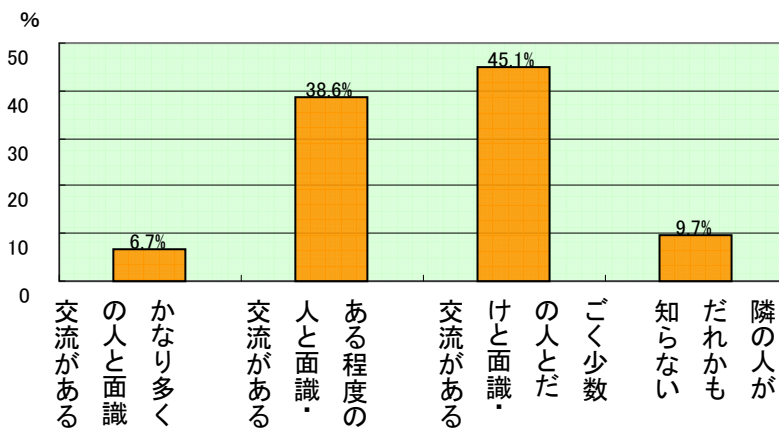
2-（1）あなたは、ご近所の方とどのようなおつきあいをされていますか？

調査結果
 アンケートに答えた回答者のうち約半数は、近所と「あいさつ程度の最小限のつきあい」をしており、次いで約3割の回答者が「日常的に立ち話をする程度」をしていると答えている。近所づきあいを「全くしていない」と答えた回答者は最も少なく、全体の9割以上の回答者は、何らかの近所づきあいをしていると答えている。



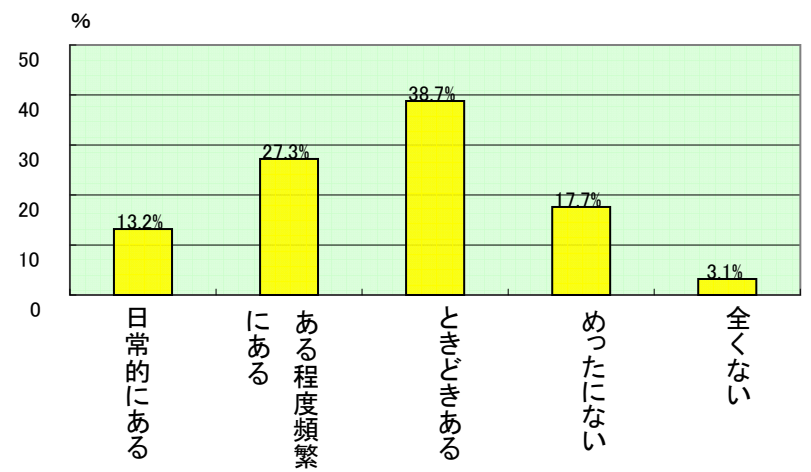
2-（2）つきあっている人の数はどのくらいですか？

調査結果
 アンケートに答えた回答者のうち約半数は「ごく少数の人（4人以下）の人とだけと面識がある」と答えている。このことから、多くの人は何らかの近所づきあいをしているが、その人数はあまり多くないことが伺える。



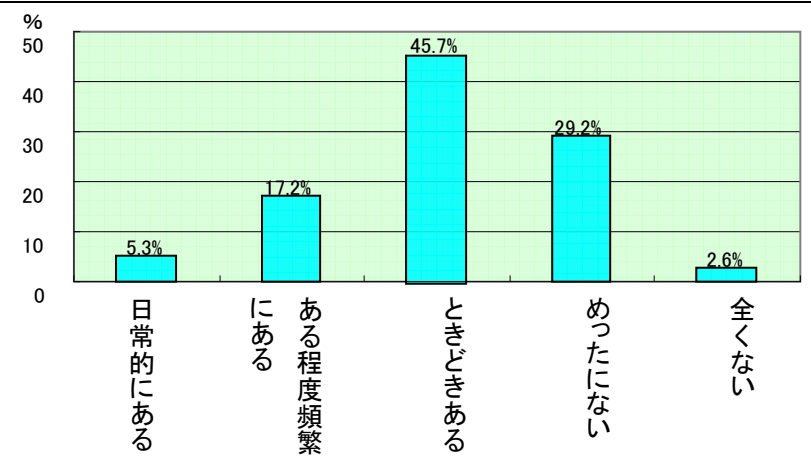
2－（3）友人・知人とのつきあい（学校や職場以外で）について、あなたは普段どの程度の頻度でつきあいをされていますか？

調査結果
アンケートに答えた回答者の約4割は、友人・知人とのつきあいが「ときどきある」と答え、約3割の回答者は「ある程度頻繁にある」と答えている。全体の約8割の回答者は、友人・知人と何らかのつきあいを持っている。



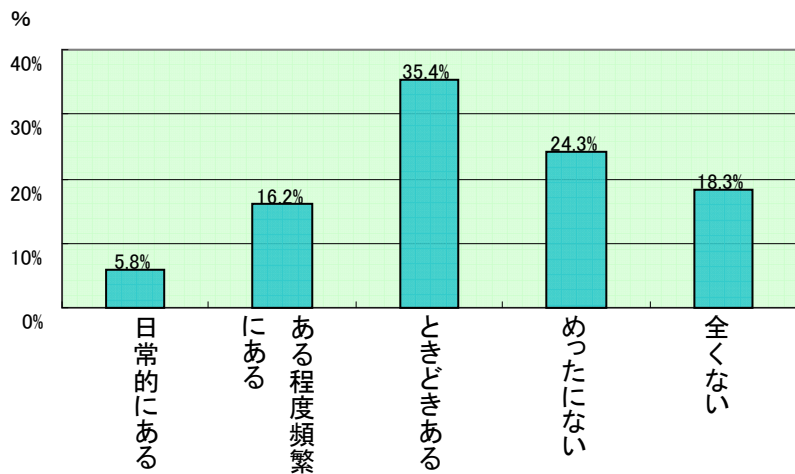
2－（4）親戚・親類とのつきあいについて、あなたは普段どの程度の頻度でつきあいをされていますか？

調査結果
アンケートに答えた回答者のうち約半数は、親戚・親類とのつきあいが「ときどきある」と答えている。次いで約3割の回答者はつきあいが「めったにない」と答えている。全体で親戚・親類と何らかのつきあいのある人は約7割を占めており、友人・知人とのつきあいの頻度と比較すると、その頻度は低いといえる。



2－（5）職場の同僚とのつきあい（職場以外で）について、あなたは普段どの程度の頻度でつきあいをされていますか？

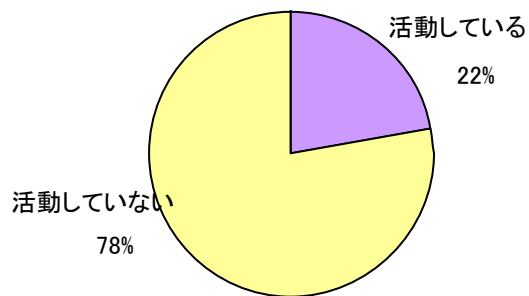
調査結果
 アンケートに答えた回答者のうち約4割は、職場以外で同僚とのつきあいが「ときどきある」と答えている。次いで約2割の回答者は「めったにない」と答えている。この結果を、友人・知人及び親戚・親類とのつきあいの頻度と比較すると、職場の同僚とのつきあいの頻度は最も低くなっている。



3. 地域※での活動状況について ※地域：小・中学校区から市町村の範囲

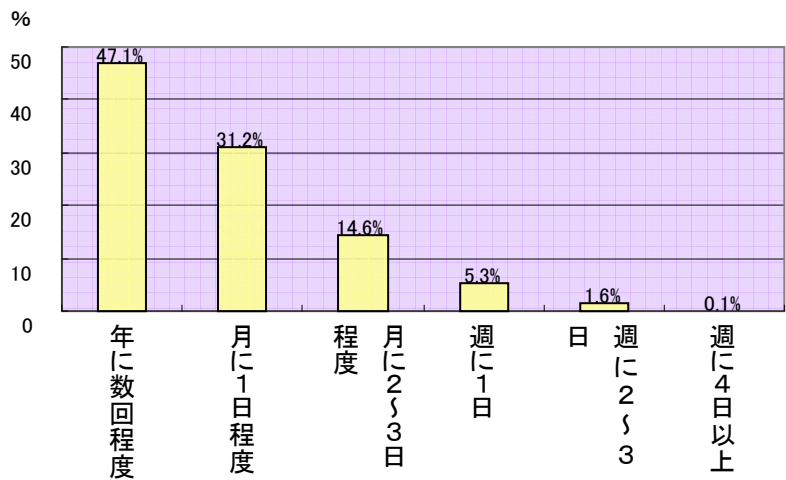
3－（1）あなたは現在、地縁的な活動（自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子供会など）をされていますか？

調査結果
 アンケートに答えた回答者の約2割が、地縁的な活動（自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子供会など）について「活動している」と答えている。



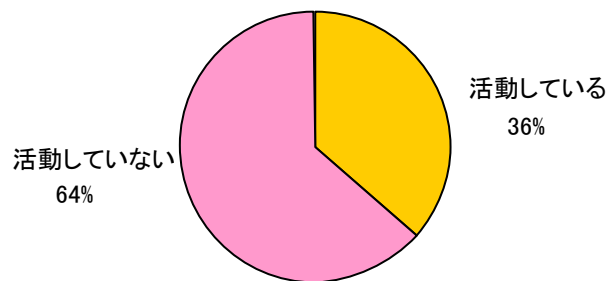
3-(2) (3-(1)「活動している」と回答した人のみ) あなたが現在、地縁的な活動(自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子供会など)に参加される頻度はどの程度ですか?

調査結果
 地縁的な活動を「している」と答えた回答者のうち、約半数の回答者は「年に数回程度」活動を行っていると考えており、次いで「月に1回程度」と答えた回答者の割合が高い。



3-(3) あなたは現在、スポーツ・趣味・娯楽活動(各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習など)をされていますか?

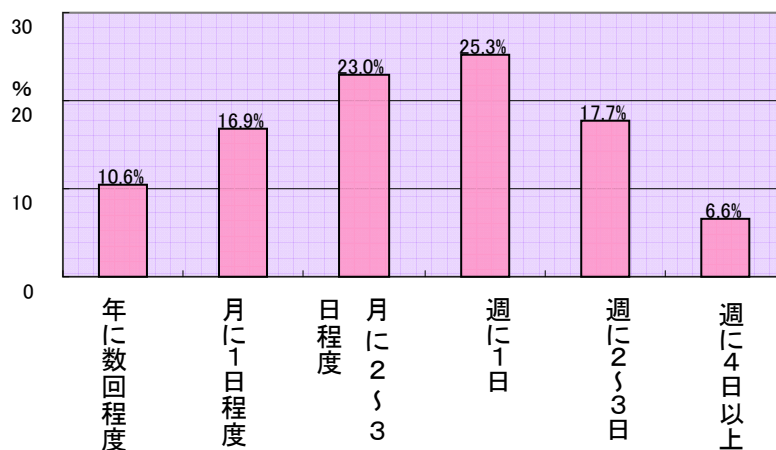
調査結果
 アンケートに答えた回答者のうち約4割が、スポーツ・趣味・娯楽活動(各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習など)について「活動している」と答えている。



3- (4) (3-3) 「活動している」と回答した人のみ) あなたが現在、スポーツ・趣味・娯楽活動(各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習など)に参加される頻度はどの程度ですか？

調査結果

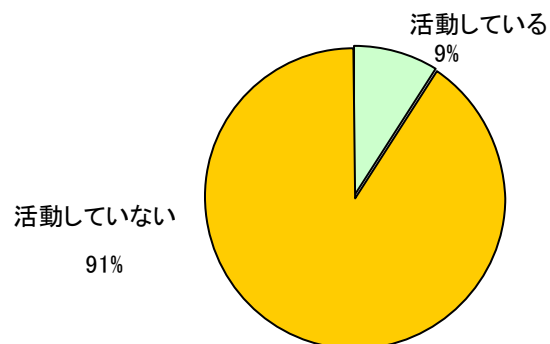
スポーツ・趣味・娯楽活動を「している」と答えた回答者のうち、最も多い回答は「週に1日」であり、次いで「月に2～3日程度」の順となっている。



3- (5) あなたは現在、ボランティア、NPO、市民活動(まちづくり、高齢者・障害者福祉や子育て、スポーツ指導、美化、防犯・防災、環境、国際協力活動など)をされていますか？

調査結果

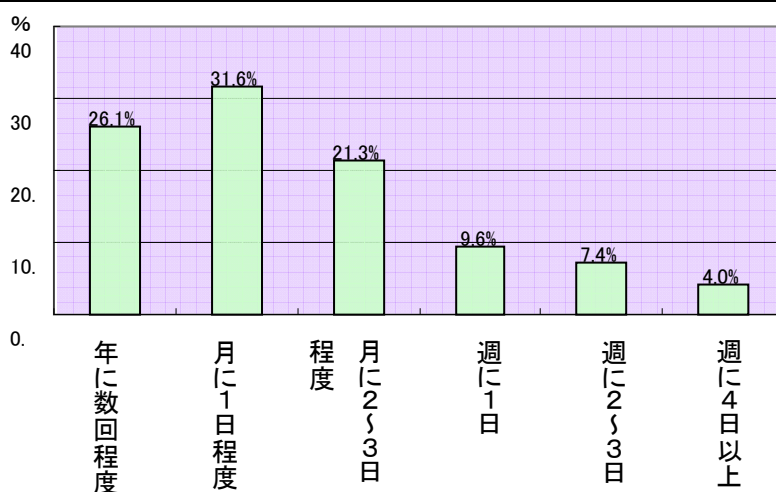
アンケートに答えた回答者のうち約1割が、ボランティア、NPO、市民活動(まちづくり、高齢者・障害者福祉や子育て、スポーツ指導、美化、防犯・防災、環境、国際協力活動など)について「活動している」と答えている。



3-(6) (3-(5)「活動している」と回答した人のみ) あなたは現在、ボランティア、NPO、市民活動(まちづくり、高齢者・障害者福祉や子育て、スポーツ指導、美化、防犯・防災、環境、国際協力活動など)をされる頻度はどの程度ですか？

調査結果

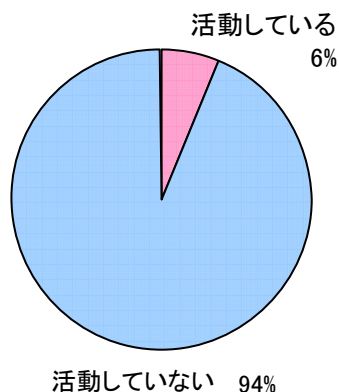
ボランティア・NPO・市民活動を「している」と答えた回答者のうち、最も多い回答は「月に1回程度」31.6%であり、次いで「年に数回程度」26.1%の順となっている。活動を行っている回答者のうち、約7割強の人が1ヶ月に数回程度活動しているものの、その頻度はスポーツ・趣味・娯楽活動(各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習など)より低くなっている。



3-(7) あなたは現在、その他の団体・活動(商工会、業種組合、宗教、政治など)をされていますか？

調査結果

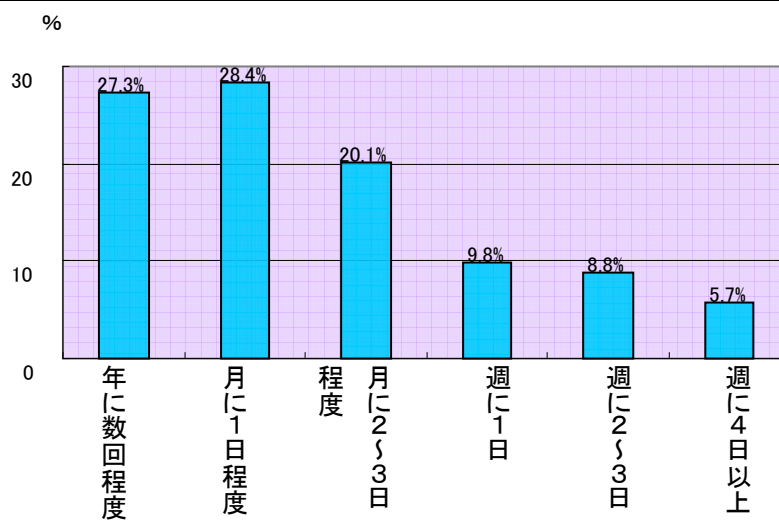
アンケートに答えた回答者のうち6%は、その他の団体・活動(商工会、業種組合、宗教、政治など)について「活動している」と答えている。



3－(8) (3-7)「活動している」と回答した人のみ）あなたが現在、その他の団体・活動（商工会、業種組合、宗教、政治など）に参加される頻度はどの程度ですか？

調査結果

その他の活動を「行っている」と答えた回答者の約3割は、「月に1回程度」その他の団体・活動（商工会、業種組合、宗教、政治など）と答えた回答者が最も多く、次いで「年に数回程度」27.3%の順となっている。

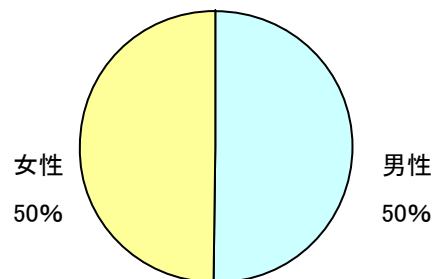


回答者の属性

(1) あなたの性別

調査結果

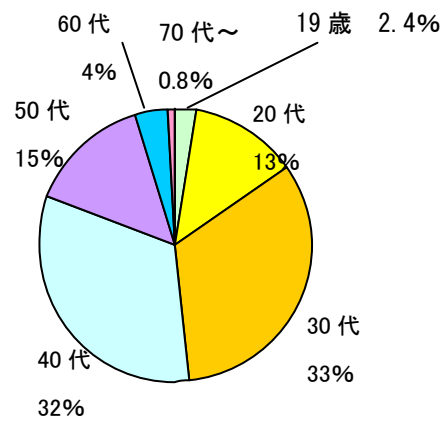
回答者の性別は、男性5割、女性5割である。



(2) あなたの満年齢

調査結果

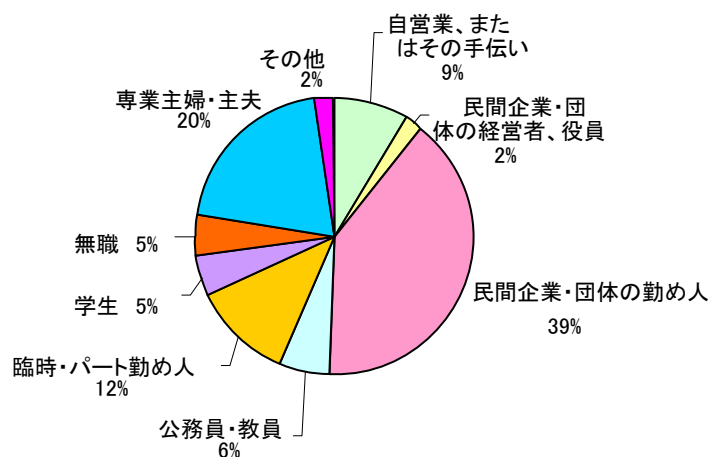
回答者のうち、30代が33%と最も多く、次いで40代の32%である。



(3) あなたの職業

調査結果

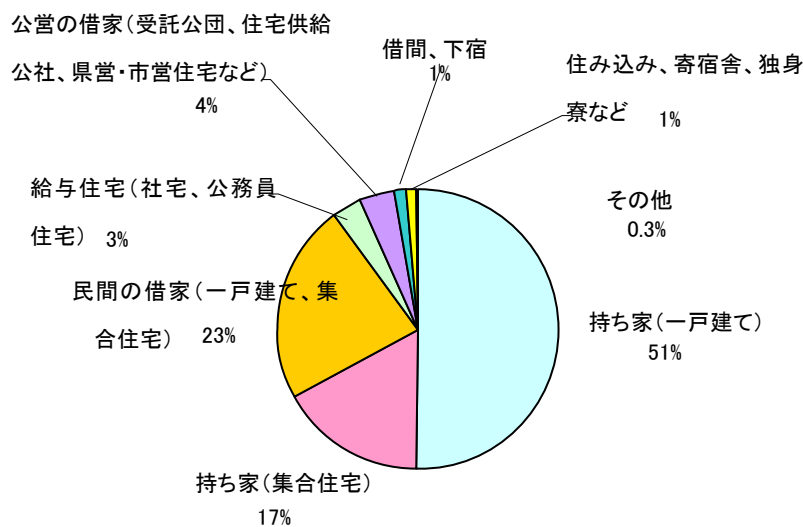
回答者のうち最も多い職業は、「民間企業・団体の勤め人」39%であり、次いで「専業主婦・主夫」20%、「臨時・パート勤め人」12%の順である。



(4) 居住形態

調査結果

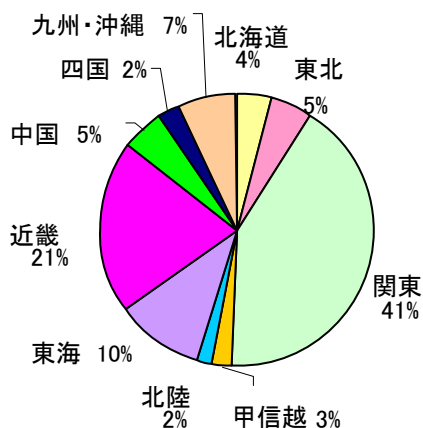
回答者の居住形態のうち最も多いのは、「持ち家（一戸建て）」51%であり、次いで「民間の借家（一戸建て、集合住宅）」23%である。



(5) 居住地域

調査結果

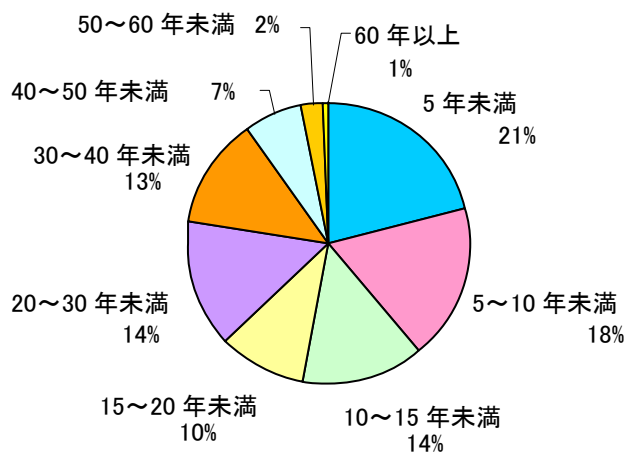
回答者の居住地域のうちで最も多いのは、「関東」41%、次いで「近畿」21%、「東海」10%の順である。



(6) 現在の地域（市区町村）での居住年数

調査結果

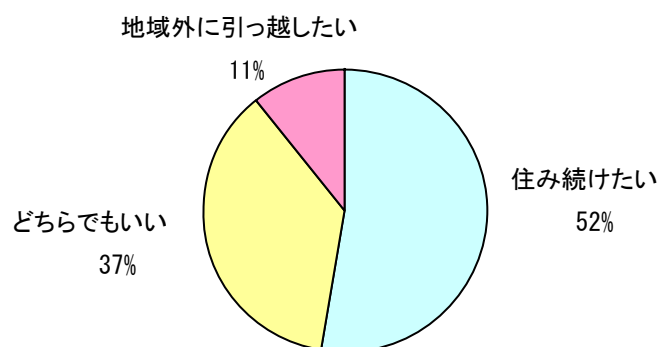
回答者の居住年数のうちで最も多いのは、「5年未満」21%、次いで「5～10年未満」18%である。



(7) 今後も現在お住まいの地域（市区町村）に住み続けたいかどうか

調査結果

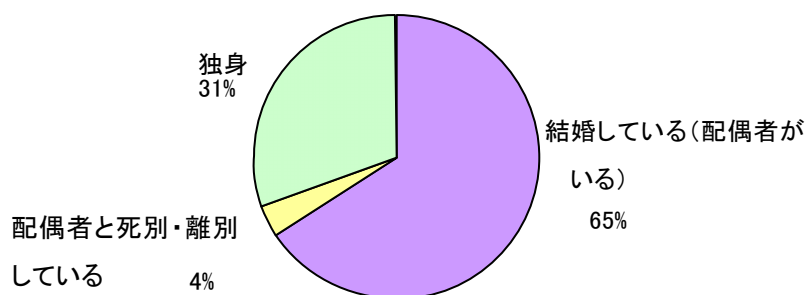
回答者のうちで、今の地域に「住み続けたい」と思っている人が最も多く 52%、次いで「どちらでもいい」と答えた人が 37%である。



(8) 既婚、未婚の別

調査結果

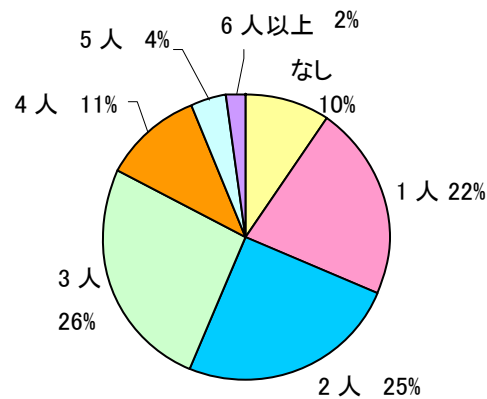
回答者の 65%が結婚しており、次いで独身が 31%である。



(9) 同居している家族の人数（本人を除く）

調査結果

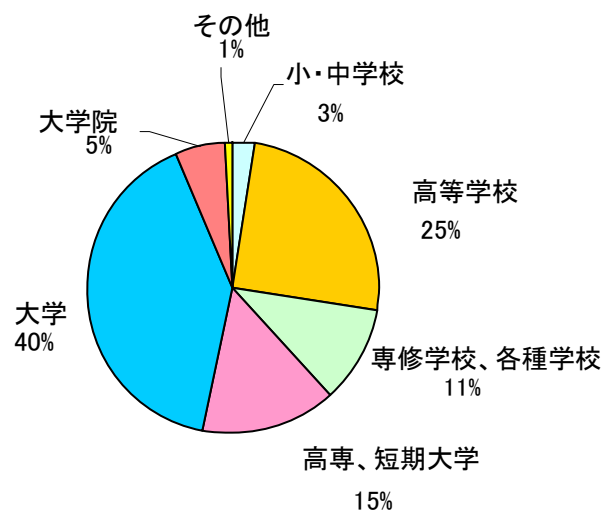
回答者のうちで 26%の人が同居している家族の人数が「3人」と最も多く、回答者本人を含めると4人家族が最も多い。次いで「2人」が25%である。



(10) 最終学歴

調査結果

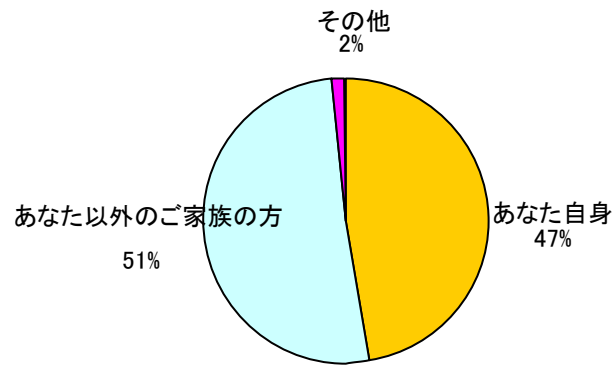
回答者の最終学歴のうちで最も多いのが「大学」40%で、次いで「高等学校」25%である。



(11) 主として、あなたの世帯を経済的に支えている方

調査結果

回答者のうちで51%の人が「回答者以外の家族」が家計を支えており、次いで「回答者自身」47%である。



(12) ご家族全部を合わせた、去年1年間の収入（ボーナスを含む、税込み）

調査結果

回答者のうち 21%の人が「年収 400 万円～600 万円未満」と最も多く、次いで「600 万円～800 万円未満」18%である。

